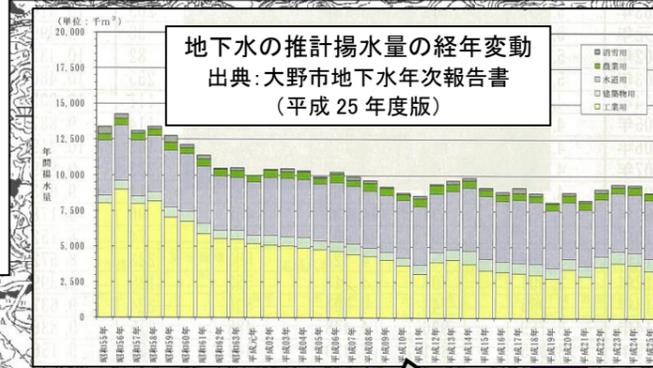


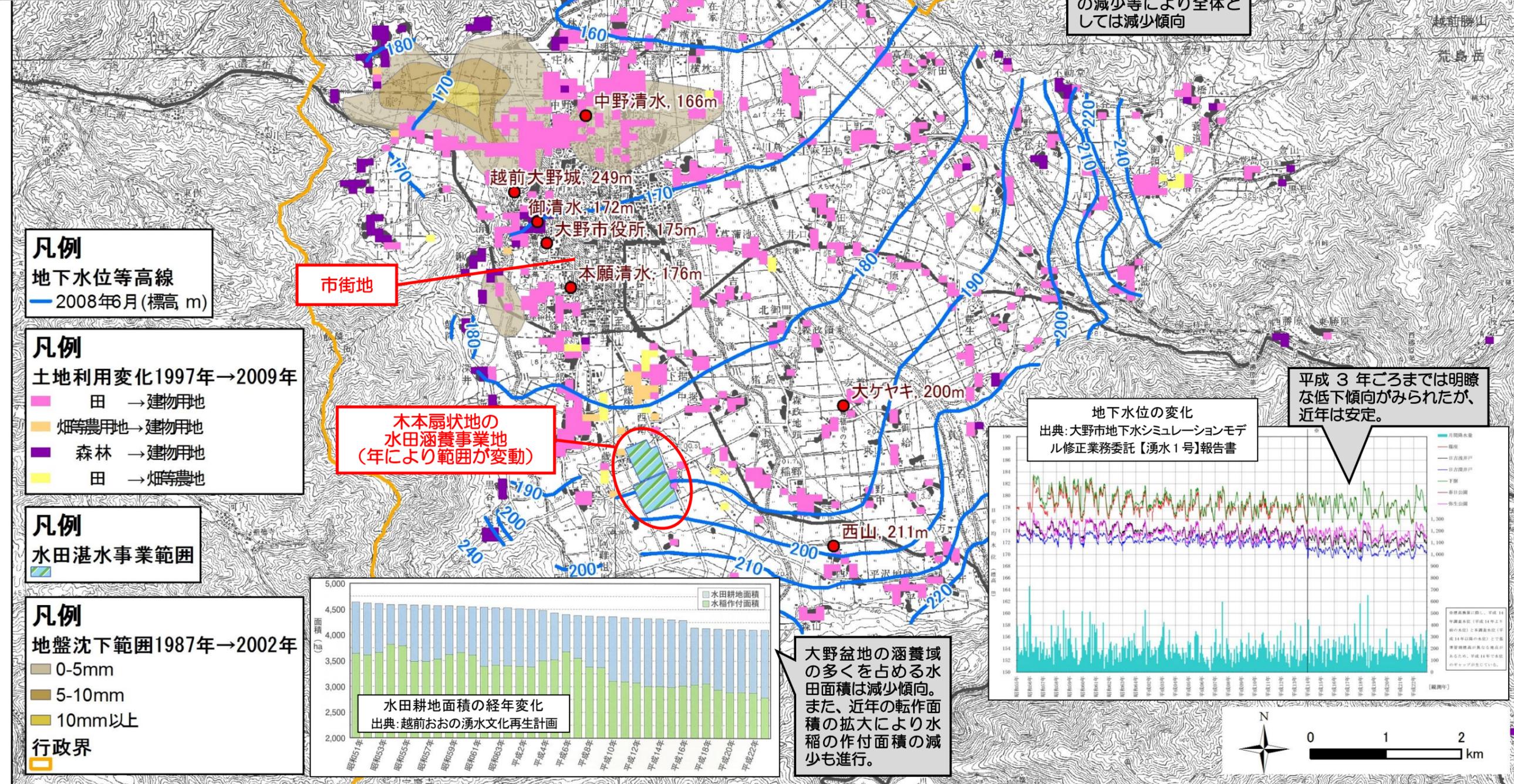
図2 地下水位と地下水保全

2003年（平成15年）6月の地下水位は2008年（平成20年）と比較するとほとんど差がなかったため、ここでは図示しなかった。1997年（平成9年）から2009年（平成21年）にかけての土地利用変化をみると、水田の宅地化が多く、多くの箇所では認められる。また、水田から畑作等への転作や森林の宅地化がみられる地域もあることがわかる。これらの土地利用変化から涵養域面積の減少が推測される。

全体の地下水揚水量は減少傾向にあるものの、近年の地下水位にほとんど変化はみられない。大野市では地下水位の低下が懸念されていた1978年（昭和53年）より地下水保全の一環として木本扇状地において水田涵養事業を実施している。



凡例名	データ名/資料名	データ/資料入手先
地下水位等高線	大野市地下水シミュレーションモデル修正業務委託【湧水1号】報告書	大野市
土地利用	国土数値情報 土地利用細分メッシュ	国土交通省国土政策局国土情報課
水田湛水事業範囲	大野市地下水シミュレーションモデル修正業務委託【湧水1号】報告書	大野市
地盤沈下範囲		



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）、数値地図50000（地図画像）、数値地図25000（地図画像）及び電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平27情複、第758号）」 参考資料 3-3

注意！！ 本資料の作成にあたっては、専門家の助言をうけておりますが、利活用にあたっては、専門家の監修を受けるようにして下さい。